

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 10 日現在

機関番号：34419

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26380494

研究課題名(和文) 制度的企業家によるフレーム形成過程の分析：NPO支援制度の変化を例として

研究課題名(英文) An Analysis of Formation Processes for Frames by Institutional Entrepreneurs

研究代表者

東郷 寛 (TOGO, Hiroshi)

近畿大学・経営学部・准教授

研究者番号：10469249

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、NPO支援制度を事例として、公共政策過程における制度的企業家によるフレーミングを通じた公設民営型・市民活動支援施設の制度化過程を明らかにすることにある。具体的には過去三年間の調査で得たインタビューデータと公式資料をもとにして施設設置に向けた過程を分析した。第一に、主要アクターである制度的企業家の実践を分析する制度化モデルを提示した。第二に、このモデルを分析枠組として使用し、各段階において異なる主要アクター(制度的企業家)がそれぞれの文脈で「市民参加」を意味付けて行為を組織化する、つまり、フレーミングを逐次的に行うことによって、最終的に支援施設が制度化された点を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research is to demonstrate, through a case study, an institutionalization process for the foundation of a support facility for civic activities in the form of a “Public-owned Private-operated” system through framing by institutional entrepreneurs. Based on interview data and formal documents that were collected during the past three years, we specifically analyzed the process towards the foundation of the aforementioned support facility for civic activities. First, we proposed the institutional model for analysis of the practices undertaken by actors. Second, we used this model as an analytical framework and then revealed that different main actors (i.e., institutional entrepreneurs) gave different meanings to the concept of “civic participation” and organized actions (sequentially promoted framing) in accordance with different contexts at each stage of the policy process, which finally led to the institutionalization of the aforementioned support facility.

研究分野：経営組織論

キーワード：公民パートナーシップ 中間支援施設 公共政策 組織間関係論 新制度派組織論

1. 研究開始当初の背景

先進諸国の福祉国家政策の行き詰まりが顕著となった1970年代後半以降、公的部門が単独で公共サービスのニーズの多様化や複雑化した社会問題に対応することが困難になった。その結果、公的部門は、民営化のみならず、民間部門の資源を活用しながら、つまり、「公民パートナーシップ (Public Private Partnership, 以下 PPP)」をつうじて、上記の課題に対処するようになった。

PPPとは、社会的目標を達成するために政府の資源と民間部門の資源を組み合わせる (Skelcher, 2005) ことであり、公的主体と民間主体がリスク、コスト、便益を共有しながら、各主体が単独では創造できない付加価値を創造することを目的とする。PPPの形態は、戦略の共有の程度に応じて、「協調 (cooperation)」、「調整 (coordination)」、「協働 (collaboration)」などに分けられる (Bailey and Koney, 2000; Sullivan and Skelcher, 2002 など)。とりわけ、戦略共有の程度が最も高い協働の形態による PPP が注目されており、領域横断的な公共的課題 (貧困地区の再開発など) への取り組みにおいてこの形態による PPP が活用されている。協働成立の条件として、「危機の知覚 (perceived crisis)」、「乱高下の激しい外部環境 (environmental turbulence)」、「問題の複雑性 (complexity)」 (Gray, 1989) があげられる。

しかしながら、その一方で、協働形成に向けた動的な分析枠組の検討が十分になされていない。そこで、本研究では、協働形成に向けた分析枠組を検討したうえで、NPO 支援制度を事例とした制度的企業家による協働形成過程を明らかにする。

2. 研究の目的

本研究の目的は、動的な協働形成過程を分析する枠組の提示とそれを使用した事例分析をつうじて、協働形成過程を明らかにすることにある。具体的には、NPO 支援制度を事例として、制度的企業家によるフレーミングをつうじた公設民営型・市民活動支援施設の形成 (制度化) 過程を明らかにすることを目的としている。

3. 研究の方法

先に記した目的を果たすための研究方法として、制度的企業家に関する文献レビュー、文献レビューを踏まえた分析枠組の提示、事例分析に向けた資料収集およびインタビュー調査があげられる。第一に、文献レビューをつうじて、行為者である制度的企業家の実践をとらえる枠組の必要性を明らかにした。そのうえで、協働形成過程の分析枠組の比較検討を行い、制度化モデルを使用する根拠づけを行った。第二に、公式資料をもとに京都市市民活動総合センター設置までの過程を分析したうえで、インタビュー調査に向けて不明な点や確認すべき点を整理した。次に、当事者へのインタビューで得られたデータをもとに事例に関する理解を再構成し、事例分析の精緻化を目指した。

4. 研究成果

本研究では、制度化モデルを使用し、協働形成に関するアクター (制度的企業家) の実践に焦点を合わせながら、公設民営型・市民活動支援施設 (協働による公民パートナーシップ) の設置過程の分析を試みた。本研究の主な成果は以下の通りである。

第一に、文献レビューをもとに主要アクターである制度的企業家の実践を分析する「制度化モデル」を提示した。このモデルは、「制度の担体 (Institutional carrier)」を用いて行為主体 (アクター) の実践を分析するものである。制度の担体は、「観念 (idea)」(意味) を運ぶ「乗り物 (vehicles)」 (Scott, 2008) であり、象徴システム (規則、法律、価値、期待など)、関係性システム (政治システム、アイデンティティなど)、ルーティン (標準作業手続き、職業、役割、義務など) そして、人工物 (慣習など) に分けられる。アクターは、制度の担体に意味を注入して、実践を行う。本研究では、公民各アクターがそれぞれの実践を相互に参照しながら、共通の制度の担体にそれぞれが異なる意味を注入することによって協働が形成 (制度化) されると分析している。

第二に、協働形成過程を分析するモデルとして知られている「協働形成モデル」との比較を行ったうえで、制度化モデルを使用する根拠づけを行った点があげられる。具体的には、協働

形成モデルの問題点を指摘したうえで、これを乗り越える枠組として制度化モデルを位置付けている。第三に、制度化モデルを分析枠組として使用して、次の点を明らかにした。首長が提示したコンセプトである「市民参加」をもとに、公共政策の各段階において、異なる主要アクター（制度的企業家）がそれぞれの文脈で「市民参加」を意味付けて行為を組織化する、つまり、フレーミングと制度の担体への意味の注入を逐次的に行うことによって、最終的に支援施設の制度化につながった点を明らかにした。

以上に加えて、公設民営型・市民活動支援施設を運営するNPOのリーダー(制度的企業家の一人)の活動に焦点を合わせた分析をとおして、NPOのリーダーには、インフォーマルな制度の後押しを受けながらも、社会的イノベーターとしての個人の資質を活かし、環境変化にも柔軟に対応する能力がある点が明らかになった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計20件)

1. Hiroshi Togo, Yusuke Inoue and Tadahiko Yoshida, “Comparative Analysis on Descriptive Models for Policy Process of a Public Private Collaboration”, Proceedings of the 2017 Annual Meeting of the Academy of Management, Academy of Management, 2017, 査読有
2. 金川幸司, 岸昭雄, 尹大栄, 浦野充洋, 「社会的企業の定義とその制度設計に関する - 考察 - イギリスの CIC 制度を中心として - 」, 『経営と情報』, 第 29 巻, 第 2 号, 11-21 頁, 2017, 査読無
3. 浦野充洋, 尹大栄, 金川幸司, 岸昭雄, 「イタリアにおける社会的企業の動向: 協同組合から社会的企業へ」, 『経営と情報』第 29 巻, 第 2 号, 23-33 頁, 2017, 査読無
4. 岸昭雄, 金川幸司, 尹大栄, 浦野充洋, 「英国における Social Value Act と公共調達」, 『経営と情報』, 第 29 巻, 第 2 号, 1-9 頁, 2017, 査読無
5. 井上祐輔, 「パブリック・プライベート・コラボレーションの形成プロセスの分析枠組み: コラボレーション形成モデルと制度化モデルの検討」, 『函大商学論究』, 第 48 巻 2 号, 195-220 頁, 2016, 査読無
6. Hiroshi Togo, Tadahiko Yoshida, and Yusuke Inoue, “An Analysis of Policy Formation Process for Public Private Collaboration: An Institutional Theory Perspective”, Proceedings of the 30th BAM Annual Conference, British Academy of Management, 2016, 査読有
7. Kazuhiko Arakawa, Hiroshi Togo, Tomohiko Taniguchi, “Organizational socialization and career development of foreign workers in the era of global migration – A study on enabling conditions for social inclusion of Brazilians migrants at workplaces in Japan”, Proceedings of the 32nd EGOS Colloquium, European Group for Organizational Studies, 2016, 査読有
8. Hiroshi Togo, Yusuke Inoue and Tadahiko Yoshida, “Diffusion of institution and diversification of institution: Consideration of the coordination process mediated by different institutional carriers infused with different ideas”, Proceedings of the 32nd EGOS Colloquium, European Group for Organizational Studies, 2016, 査読有
9. 吉田 忠彦, 「仙台市市民活動サポートセンターの設立プロセス」, 『商経学叢』, 63 (1), 83-94 頁, 2016, 査読無
10. Kazuhiko Arakawa, Hiroshi Togo and Tomohiko Taniguchi, “Empowerment of newcomers by social inclusion and autonomous career development”, Proceedings of the 31st EGOS Colloquium, European Group for Organizational Studies, 2015, 査読有
11. Hiroshi Togo, Tadahiko Yoshida, Takehisa Yamada, Fumihiko Ichikawa, and Yusuke Inoue, “An analysis of an institutional change from the perspective of historical institutionalism: A case of a Japan’s porcelain production area”, Proceedings of the 29th BAM Annual Conference, British Academy of Management, 2015, 査読有
12. 金川幸司, 「市民社会組織と行政システム

- に与えるソーシャルインパクト投資の意義」,『計画行政』,第38巻第3号,13-18頁,2015,査読無
13. 金川幸司,「海外におけるソーシャルビジネスへの公的支援:ソーシャルビジネスの効果的成果創出に向けて」,『日本政策金融公庫論集』,第26号61-74頁,2015,査読無
 14. 今井良広,金川幸司,後房雄,「コミュニティ・レジリエンスとソーシャル・キャピタル:南三陸町における震災復興の取り組みから」,『経営と情報』,第27巻第2号,1-24頁,2015,査読無
 15. 吉田忠彦,「110年ぶりの公益法人改革は成功したか?」,『公益一般法人』,888号4-12頁,2015,査読無
 16. Hiroshi Togo and Tadahiko Yoshida, “From Network Management to Inter-sectoral Management: Public managers acting the role of “institutional entrepreneur” in an emerging policy field”, Proceedings of the EGPA annual conference, European Group for Public Administration, 2014, 査読有
 17. Hiroshi Togo, Takehisa Yamada, Tadahiko Yoshida and Fumihiko Ichikawa, “Formation of the platform for a multi-sector partnership: The framing process for an institutional change of a Japan’s porcelain producing area”, Proceedings of the 30th EGOS colloquium, European Group for Organizational Studies, 2014, 査読有
 18. 金川幸司,岸昭雄,「災害弱者としての幼児,妊婦に対する防災教育とそのインパクト: SROIの視点を手がかりとして」,『経営情報イノベーション研究』,第3号,1-15頁,2014,査読無
 19. 井上祐輔,竹岡志朗,高木修一,「テキストマイニングに関する方法論的検討:クチコミ情報に基づくイノベーションの普及分析」,『日本情報経営学会誌』,第35巻1号,59-71頁,2014,査読有
 20. 竹岡志朗,高木修一,井上祐輔,「テキストマイニングを用いたイノベーションの普及分析」,『日本情報経営学会誌』,第35巻1号,72-86頁,2014,査読有
- 〔学会発表〕(計10件)
1. Hiroshi Togo, Yusuke Inoue and Tadahiko Yoshida, “Comparative Analysis on Descriptive Models for Policy Process of a Public Private Collaboration”, Proceedings of the 2017 Annual Meeting of the Academy of Management, Academy of Management, アトランタ,米国,2017年8月6日(確定済)
 2. Hiroshi Togo, Tadahiko Yoshida, Yusuke Inoue, “An Analysis of Policy Formation Process for Public Private Collaboration: An Institutional Theory Perspective”, The 30th BAM Annual Conference, British Academy of Management, Newcastle University, ニューカッスル,英国,2016年9月7日
 3. Kazuhiko Arakawa, Hiroshi Togo and Tomohiko Taniguchi, “Organizational socialization and career development of foreign workers in the era of global migration – A study on enabling conditions for social inclusion of Brazilians migrants at workplaces in Japan”, 32nd EGOS Colloquium, European Group for Organizational Studies, University of Naples Federico II, ナポリ,イタリア,2016年7月9日
 4. Hiroshi Togo, Yusuke Inoue and Tadahiko Yoshida, “Diffusion of institution and diversification of institution: Consideration of the coordination process mediated by different institutional carriers infused with different ideas”, 32nd EGOS Colloquium, European Group for Organizational Studies, University of Naples Federico II, ナポリ,イタリア,2016年7月7日
 5. 金川幸司,「バンダアチェの被災集落における居住移転と生活復興」日本公共政策学会,日本大学,2016年6月12日
 6. Hiroshi Togo, Tadahiko Yoshida, Takehisa Yamada, Fumihiko, Ichikawa, and Yusuke Inoue, “An analysis of an institutional change from the perspective of historical institutionalism: A case of a Japan’s porcelain production area”, The 29th Annual Conference, British Academy of Management, University

- of Portsmouth, ポーツマス, 英国, 2015 年 9 月 9 日
7. Kazuhiko Arakawa, Hiroshi Togo and Tomohiko Taniguchi, “Empowerment of newcomers by social inclusion and autonomous career development”, 31st EGOS Colloquium, European Group for Organizational Studies, ALBA Graduate Business School at The American College of Greece, アテネ, ギリシャ, 2015 年 7 月 3 日
 8. 竹岡志朗, 高柳直弥, 井上祐輔, 高木修一, 「イノベーションの普及における連続性と非連続性」, 日本情報経営情報学会, 石垣市ホテル日航八重山, 沖縄県, 2014 年 11 月 9 日
 9. Hiroshi Togo and Tadahiko Yoshida, “From Network Management to Inter-sectoral Management: Public managers acting the role of “institutional entrepreneur” in an emerging policy field”, EGPA Annual Conference, European Group for Public Administration, シュパイヤー, ドイツ, 2014 年 9 月 11 日
 10. Hiroshi Togo, Takehisa Yamada, Tadahiko Yoshida and Fumihiko Ichikawa, “Formation of the platform for a multi-sector partnership: The “framing” process for an institutional change of a Japan's porcelain producing area”, 30th EGOS Colloquium, European Group for Organizational Studies, ロッテルダム, オランダ, 2014 年 7 月 5 日

〔図書〕(計 7 件)

1. 吉田忠彦, 「非営利組織経営論—経営管理と戦略の重要性—」坂本治也 (編著) 『市民社会論：理論と実証の最前線』第 4 章, 法律文化社, 55-71 頁, 2017, 査読無
2. Hiroshi Togo, Tadahiko Yoshida, Takehisa Yamada, Fumihiko Ichikawa, and Yusuke Inoue, “Framing Processes for an Institutional Change of a Japan’s Porcelain Production Area”, C. Boari, T. Elfring & X. Molina-Morales (Eds.), Entrepreneurship and Cluster Dynamics (Ch. 9). Abingdon, UK: Routledge, 2016, 査読有.

3. 井上祐輔, 「イノベーションが普及するとは、ということなのか：テキストマイニングの利用可能性」, 「本書の結論と含意」, 竹岡志朗, 井上祐輔, 高木修一, 高柳直弥, 『イノベーションの普及過程の可視化—テキストマイニングを用いたクチコミ分析』第四章・第九章, 日科技連, 36-54 頁, 143-155 頁, 2016, 査読無
4. 金川幸司, 「海外におけるソーシャルビジネスへの公的支援 - ソーシャルビジネスの効果的成果創出に向けて」, 日本政策金融公庫総合研究所編, 同友館, 総ページ数 26, 2015, 査読無
5. 吉田忠彦, 「NPO の協働～若者へ向けて～：持続可能社会と NPO のファンドレイジング・協働」, 関西国際交流団体協議会 (編) 『NPO・NGO のキャパシティ・ディベロップメント』, 2015, 査読無
6. 深尾昌峰, 「ソーシャルビジネスと社会的企業」, 「ファンドレイズと地域社会の資金循環」, 西村仁志 編, 『ソーシャルイノベーションが拓く世界: 身近な社会問題解決のためのトピックス』第 20 章・第 30 章, 法律文化社, 2014, 査読無
7. 松本功, 村田和代, 深尾昌峰, 三上直之, 重信幸彦, 『市民の日本語へ：対話のためのコミュニケーションモデルを作る 2014』, 総ページ数 145 頁, ひつじ書房, 2014, 査読無

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称：
 発明者：
 権利者：
 種類：
 番号：
 出願年月日：
 国内外の別：

取得状況 (計 0 件)

名称：
 発明者：

権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
特になし

6．研究組織

(1)研究代表者

東郷 寛 (TOGO Hiroshi)
近畿大学・経営学部・准教授
研究者番号：10469249

(2)研究分担者

金川 幸司 (KANAGAWA Koji)
静岡県立大学・経営情報学部・教授
研究者番号：00341470

深尾 昌峰 (FUKAO Masataka)
龍谷大学・政策学部・准教授
研究者番号：00585804

吉田 忠彦 (YOSHIDA Tadahiko)
近畿大学・経営学部・教授
研究者番号：20210700

井上 祐輔 (INOUE Yusuke)
函館大学・商学部・講師
研究者番号：90737975